

親子合同年祭

これの祖霊社にお鎮まり下さいます天理教○○分教会初代会長故△△△△刀自並びに
令息故○○○大人の霊の前に 天理教 分教会長 慎んで申し上げます
久方の空行く月のさやかな光にも 立ち迷う浮雲の障りがあるが如く また春山に咲
き乱れる美わしい花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きがあるように 長命でしかも健やかに
たすけ一条の道にお励みいただきたいと心より願っておりましたのに かしものかり
ものの現身の慣い免がれ得ず いつになっても名残惜しい今世を後にして ○○大人
はいまだ春秋に富む四十五歳という短い命で また△△刀自は六十五歳を生きの限り
として 逝く水の還らぬ如く 入る月の影消えるが如く はかなくも朝露の如く夕霧
の如く来世への旅路を発たれてしまいました

夜空にかゝる月影を見ては ありし日の御心を偲び さや／＼と流れる風の音を聞く
と 元気で立ち働いておられた長い年月の面影を思い起こし 露に花咲く勿忘草のよ
うに忘れる日は無く 思い出さない時はなく 早や一年は夢の間に過ぎて 深い淋し
さが心に残るまま一年祭をこのようにつとめさせて頂く日となりました

御前に後任会長△△△△姉以下遺族親戚 また○○分教会につながる役員よぶべく信
者を始め 今は亡き御霊様たちと親しい間柄であった人たち寄り集い 改めて生前の
道すがらをあれこれ語り合い 共に喜び共に涙した昔をそれぞれに偲んでおります

思い返せば御霊様たちは病院通いの可弱い身でありながら △△△△伯 引き続きいて
△△△△大人を我が家に引き取って 文字通り真実の看護に当たられました が その
当時 このお道の人となられてから 凡そ四十年の長きに亘って 親神様の御教を心
の定規とし いかなる節の中も教祖のひながたを見つめて その足跡を辿り深くいん
ねんを自覚してたんのうに徹し ひのきしんの先頭に立ち 朝は朝星夜は夜星を見上
げつゝ にをいがけおたすけの道に身も心も捧げられました 遂には末代かけて栄あ
る名称の理○○分教会を設立されましたが あるいは先になりあるいは後になり 時
には表に立ち時には陰にあって働かれた御霊様お二人のそれぞれの功績を一同脳裡に
浮べ臉に描いて 今そこに居られるが如く その御声が聞こえるが如く懐かしさが私
たち一同の心に溢れております

さて御前に海川山野のとりどりの御神饌を御供申し 長い間お導き頂きました感謝と
御礼を籠め一人々々心より玉串を奉献させて頂きますが 御霊様たちお二人を引き続
いて失いました後 その悲しみその淋しさを深く味わいつゝも ただ徒に嘆き悲しん
でいては却って申し訳ないことと 一同〃節から芽が出る〃お言葉のまにまに涙をふ
るって立ち上がり 御心にひたすらかけられた教祖九十年祭を一手一つにつとめ上げ
さらに百年祭を目指して勢いよく今は前進を続けております

これもまた偏に親神様教祖の厚い親心によることは申し上げるまでもありませんが
また御霊様たちが蔭からお働き下さる賜物と深く御礼申さずにはおれません
どうかより一層思召の教会内容の充実を目指して 一にもおたすけ 二にもおたすけ
と懸命の努力を続けて参りますが 御霊様たちは天翔り国翔り○○家につながる家々
はもとより△△分教会の理の子たちの家族の先々にも 陽気ぐらしの実が見えて参り
ますようにお導きの程を一同と共に慎んで申し上げます